

## 技術報告書の発刊に当たって

三重大学大学院工学研究科 研究科長 武田保雄

今年もここに三重大学工学部・工学研究科技術職員による「技術報告集」が発刊されることをうれしく思います。技術職員の皆さんによる日頃の活動の成果の一端をうかがうことが出来ます。技術部が組織化され、グループごとの活動も活発化し、学部・研究科、あるいは大学全体に対するサービスも増加しているようで、大いに評価されるべき事と思います。

一期、6年のスパンで平成16年度から始まった国立大学法人化も4年目が終わろうとしています。毎年、運営費交付金が1%ずつ減額され、そのため教職員の数も減少の一途をたどり、それぞれの個人の仕事の負担は増えるばかりです。それでも、工学研究科・工学部では、負のスパイラルに陥ることなく何とか持ちこたえているのが現状という事ではないでしょうか。技術職員の方々を始め構成員の多大な努力のたまものと思っています。

平成19年11月には教育に関する認証評価を受けました。その評価結果はまだ届いていませんが、平成20年11月には法人化一期分の中間評価という形で今度は法人評価を受けることとなります。大学全体と部局ごとにそれぞれ法人化後の研究・教育に対する成果が問われます。現在、評価に向けた報告書を作成中です。この評価結果が二期目の運営費交付金に反映されると言われておりますが（どの程度かは分かりませんが）、いずれにせよ昔のような余裕のある大学らしい大学に戻ることはないでしょう。それでも、三重大学の工学研究科・工学部はいつまでも活力にあふれ、すぐれた研究・教育を進めていくことが私たちの望みであるはずです。結局、それは、単純ですが、教職員一人一人の努力と研鑽の積み重ねでしか実現はしないでしょう。

技術職員の皆様におかれても、いつも前向きな姿勢で業務に取り組んで頂き、工学研究科・工学部の発展に協同して頂ければ幸いです。

また工学研究科の教職員の皆様も技術部の活動に今後ともご協力をお願いしたいと思います。

平成19年12月